

書道展

10月9日(木)～16日(木) 9:00～17:00 (最終日は15:00まで)
 県立美術館・県民ギャラリーA・B・C

身近な書を楽しむ～カレンダーに書いてみよう～

12月6日(土) 13:00～16:00
 県立美術館・ワークショップ室

開催状況

平成26年10月8日、325点の応募を得て審査会が行われた。第12回より36点増ということで、国民文化祭の盛り上がりが今回の出品増に繋がったものと考えられる。

中央より、毎日書道展審査会員の栗崎浩一路先生をお招きして審査をして頂いた。「それぞれが古典を尊重し、多彩な表現に取り組み、レベルの高い作品が多かった」という評であった。又、今回より書道部門独自で、県から頂く文化祭賞・優秀賞以外に奨励賞を創設した。書道部門の委嘱への道は、この県民文化祭書道展のみの獲得点数により開かれている。奨励賞にもその点数を付けたことが、出品増という結果を得た一つの要因かもしれない。

第11回より始まったギャラリートークも3回実施した。100名を越す参加を得て「これからの作品作りにとっても参考になった」というような感想も頂き、好評であった。

12月6日には、書道体験教室のカレンダー作りを実施し、用意したカレンダーが全て無くなる参加者があり、盛況であった。

応募点数

漢字	173点
一字書	49点
調和体	17点
かな	44点
篆刻	10点
刻字	32点
(公募) 出品総点数	325点
委嘱出品数	64点
陳列総点数	375点
入場者数	1,150名
身近な書を楽しむ 参加者数	100名



華道展

10月8日(水)～13日(月) 10:00～19:00
山交百貨店 5階催事場

いけばな無料親子体験教室

4月19日(土)・20日(日) 13:30～16:30
岡島百貨店 7階大催場 (県華道協会展会場内)

開催状況

・華道展

華道展は前回同様山交百貨店5階催事場に於いて開催した。しかし今回からは同一階内の中央に展示場が変わり、展示会場内のレイアウトも一新しての華道展となった。会場内も一段と明るく、且つ展示表現についても一工夫をした結果、前回より大幅に入場者が増え、好評の内に開催することが出来た。

・いけばな無料親子体験教室

県民文化祭の関連行事ではあるが、文化祭華道展と同一会場、同時開催が会場スペース上実施が不可能なため、同年4月に開催した県華道協会展内に於いて開催した。開催期間は2日間ではあったが、老若男女の幅広い年齢層の参加者の下、盛大盛況の内に終了した。



参加者数

山梨県華道協会加盟流派代表…20名
同会派選抜会員……………60名
合計……………80名
入場者数……………1,712名
いけばな無料親子体験教室
入場者数……………100名 (2日間合計)
参加者数……………県華道協会代表者 20名

ハンドクラフト展

11月2日(日)～8日(土) 9:00～17:00 (8日は16:30まで)
 県立美術館・県民ギャラリーC

ハンドクラフト体験教室

7月28日(月) 10:00～15:00
 甲府市遊亀公民館

開催状況

第14回「ハンドクラフト展」は、昨年度の国民文化祭を成功させ、無事に終えての今年度の公募展を迎えました。会員10名、一般公募入選者59名が出展いたしました。展示内容は「押花絵」・「工芸盆栽」・「籐工芸」・「創作人形」・「アメリカンフラワー」・「銀粘土」・「布3Dアート」・「能面」・「クレイアート」・「デコパージュ」・「ストーンアート」・「レザークラフト」・「粘土工芸」・「彫金」・「ペーパークラフト」・「パッチワーク」・「オートマタ」・「ガラス」・「陶芸」・「刺繍工芸」・その他など多彩な力作の数々が展示されました。会期中、台風の接近でお天気に恵まれない日もありましたが、大勢の来場者をお迎えすることができました。手動で人形が動く作品は、お客様も手で触れて楽しんでいました。色々な作品を一度に見ることができて、お客様にとっても好評でした。最終日には、表彰式を行いました。新しい分野の方からの入部希望もあり、来年度に向け「ハンドクラフト部門」の内容の充実と技術の向上、発展に努めて参りたいと思います。

また、本年度も参加促進事業の一環として「ハンドクラフト体験教室」を実施し「工芸盆栽」「籐工芸」「アメリカンフラワー」「銀粘土」の体験を楽しんでもらいました。

国民文化祭後の公募展なので色々な新ジャンルの作品が多く出品され、作品の向上につながりハンドクラフト部も大きく発展していきたいと思ひます。

参加者数	会員	10名
	一般公募入選者	59名
合計		69名
入場者数		1,200名
ハンドクラフト体験教室		
参加者数		55名
	(体験者40名、スタッフ15名)	



洋舞公演・ダンスフェスティバル2014

11月15日(土)

14:30開場、15:00開演

甲府市総合市民会館・芸術ホール

開催状況

「ダンスフェスティバル2014」は甲府市総合市民会館において、11月15日土曜日に1回公演で行われました。洋舞団体に所属している平林美奈子舞踊研究所、三井京子バレエ研究所、ユミクラシックバレエスタジオ、若尾バレエ学園の4団体と、初の公募で参加した1団体の計5団体での公演となりました。

いつもですと2回公演を行っていましたが、参加団体が少ないこともあって、1回公演で実施いたしました。1日のうちに2回発表するというのは、小さい生徒さん達の集中を保つだけでもとても大変なことでしたが、今回は反対にあまりにもスムーズに行われ、早めの終了となりました。

1回公演ということで混雑も心配いたしました。ご家族やアルバイトの方々による手際の良い対応で杞憂に終わり、観覧の様子も今までになくマナーが良かったとお聞きしました。

ひとつひとつの作品に対しても、温かい拍手をいただき、出演者、観客が一体となった素敵な舞台になったと関係者一同喜んでおります。

参加団体	5 団体
出演者数	143名
入場者数	540名



朗読フェスティバル

11月24日(月・振休) 12:30開場、13:00開演
 県立文学館・講堂

夏の朗読教室

7月19日(土) 10:00~15:30
 県立図書館・多目的ホール

開催状況

「朗読フェスティバル」と改称して大勢の参加者が集う朗読の祭典を開催した。

3年振りの会場となった文学館の講堂は朗読者が目標にする晴れの舞台。今回は念願がかない桜舞台を踏むことができた。

出演は小学1年生から80歳代まで広がり、その半数が若者たち。これは参加促進活動の成果と言えよう。県外で活動するアナウンサーをはじめ、大学生や演劇青年が聴衆に感銘を与える多彩な朗読を披露する。

公演は二部構成。前半は若い人向けの作品、後半は文学作品をそろえて観客が集中できるプログラムにする。特筆は高校生が第一部の司会進行を担当したこと。専門委員の指導のもと、若さを発揮し今後の成長に期待が膨らむ。

山梨は全国に類を見ないほど朗読の活動が盛んな土地柄。裾野の拡大のつぎは表現力の向上と若者の参加が大きな課題となる。

《夏の朗読教室》

小学校の朝読書や児童館の読み聞かせを通して、親子の参加を呼びかけている。夏休みの体験がフェスティバルの参加につながる。

出演者(組)数……………17組26名
 入場者数……………254名
 夏の朗読教室
 参加者数……………59名



日本舞踊公演

休 止

日本舞踊入門

平成27年3月8日(日) 13:30~16:00
甲府市中央公民館

開催状況

日舞部門の参加促進事業では、今まで「ヤングステージ」として、ふだんから日舞に関わっている子どもたちを中心に舞台にあがっていただいております。

今年度は、新しい取り組みとして、日舞の未経験者も含め子どもから大人まで参加者を募り、日本の伝統文化である日本舞踊を多くの方に知ってもらえる機会となるような企画を致しました。

具体的には、着付け、舞踊の体験、着物での所作などの基本を、日舞部門の指導の下、参加者のみなさんに学んで頂きました。たくさんのお子さんに参加していただき、また、みなさんが笑顔で楽しく学べたことは、日舞部門にとっても嬉しい体験となりました。

今回参加されたみなさんの中から、美しい日本の踊りの文化を引き継いでいく人が現れることを願っています。また、自分が踊ることがなくても、今回の経験をきっかけに日本舞踊に興味をもっていただき、日本舞踊の公演に足を運んでくださるような方が育つことを期待しています。

今年度部門別フェスティバルは休止した日舞部門ですが、来年度は満を持し、素晴らしい舞台をつくりあげられるよう、取り組んでいきたいと考えています。

[日本舞踊入門]

参加者数……………41名



文 学

表彰式 平成27年2月14日(土) 14:00~16:30
 県立文学館・研修室

エッセイ講座「書く喜び、読む喜び～エッセイを楽しもう」

11月2日(日) 13:00~16:00
 県立文学館・研修室

開催状況

文学部門では、平成21年度には「やってみよう！短歌」(平成22年2月27日(土))で50名、平成22年度には、「小学生川柳教室」(平成22年11月13日(土))で50名。平成23年度には、「やまなし県民文化祭 俳句大会～俳句7句を作るには～」(平成24年2月11日(土・祝))で100名。平成24年度には、「やまなし県民文化祭 こどもの詩、大人の詩、詩っていいね」(平成25年2月11日(月・祝))で95名、などと次々と部門ごとの事業を行って来ました。評判もよく、リピーターも増えていると聞いています。各部門にはそれぞれの愛好者がいるのですが、このような試みを通じて各部門の横の流れや全く関心のない層にも興味を持って頂いたようです。本年度は、平成26年11月2日(日)に文学館研修室にて水木亮氏の「魅力的なエッセイの書き方」をはじめとした講演と実作講座が開催され、90人余の参加をみました。参加者アンケートによると、参加者の年齢層も広く、とくに10代～20代の若い人の参加をみたのが特徴でありました。次回も参加したいと回答した方は92%と、これも多かったようです。それぞれの意見も、「有意義だった」とか「話がおもしろかった」「参考になった」などが多くあり、この参加促進事業の有意義性を示しているといえます。来年度は、おそらく児童文学部門ですが、この方面の興味を掘りおこすのも興味のあるところでありましょう。

応募者数

小説……………10名
 児童文学……………15名
 エッセイ……………27名
 詩……………22名
 短歌……………84名
 俳句……………43名
 川柳……………79名
 (合計)……………280名 (287作品)

エッセイ講座

「書く喜び、読む喜び～エッセイを楽しもう」
 入場者数……………90名
 参加者数……………3名 (講師)



第14回やまなし県民文化祭文学作品集「県民文芸2014」

山梨フラワーデザイン展

12月6日(土)～7日(日)

10:00～19:00

甲府市総合市民会館2F

遊亀公民館展示室

開催状況

第14回やまなし県民文化祭・山梨フラワーデザイン部門展を、12月の第一週土・日に開催いたしました。

今回は全体タイトルを「一花便り…冬―」として、アドヴェントと重なる開催時期に併せ、クリスマス及び冬をイメージした作品展となりました。出展者の思いが凝縮した会場は、花の香りと共に、二日間ではありますが、多くの来場者に花の素晴らしさを伝えました。

毎回好評を頂いている案内状は、冬の温もりを感じるカラーデザインと共に「いつもこの展示会を楽しみにしています。季節が変わると雰囲気も変わり一層素敵ですね」とのご来場者の声を耳にし、積み重ねの大切さを改めて感じる催しとなりました。会場奥では体験講習会を開催、展示スペースからワークショップへと続く会場デザインも定着してきました…。今回の体験講習は、一日目は対象を農業高校生、2日目は一般の方々とし、クリスマス・ドアスワッグを制作しました。実習のみでなくクリスマスの意義、クリスマスカラーや装飾品のレクチャーも含め、有意義なワークショップの時間は、フラワーデザインの魅力をより多くの方々に伝える機会として大好評のうちに終了し、「家に戻ったら直ぐに飾り、家族にクリスマスの話をします」と、ご自分の作品を大切に持ち帰る受講生の素敵な後ろ姿に、又、「次の展示会を楽しみにしています」と頂く言葉に、準備等の疲れも吹き飛ばす充実感を覚えながらの終了となりました。

参加団体…………… 4 団体

参加者数…………… 40名

入場者数…………… 1,000名



太鼓部門公演 天野宣追悼コンサート

12月7日(日)

13:00開場、13:30開演

コラニー文化ホール・小ホール

開催状況

やまなし県民文化祭「部門別フェスティバル」太鼓部門公演の準備及び練習が順調に進んでいた9月。太鼓部門長であり、私達の師でもある天野宣先生が体調を崩し、入院を余儀なくされました。安静を強いられる中も公演に対する強い思いと責任感から、病床においてのプラン作成や曲作り、病院を抜け出しての練習指導と、この公演の舞台に立つことだけを考え、強い精神力で病と闘いましたが叶うことなく、11月3日に天野先生は逝ってしまいました。残された弟子やスタッフは大きな精神的支柱を失い、皆が茫然自失となり、更に今回の公演も危ぶまれている時に、誰彼となく、先生が生前常々言っていた「舞台こそ自分の死に場所である。」という言葉の思い出しました。そして今、残された者が出来る精一杯のコンサートをやるのが、天野先生への恩返しだとの思いから、名称を第14回やまなし県民文化祭部門別フェスティバル太鼓部門「天野宣追悼コンサート」として実施しました。内容は先生の生前からのプランで、子供達のチームを代表して「三珠歌舞伎太鼓」。高校生チーム代表の「葦崎工業高校太鼓隊」。県内チーム代表としては「高根ふるさと太鼓」、県外チーム代表は埼玉県より「妻沼太鼓」。天野先生直弟子達で編成された「阿羅漢」、全国的にも稀有な編成の「山梨県太鼓交響楽団」が天野先生作曲の太鼓曲を演奏しました。フィナーレを飾った山梨県太鼓交響楽団は、先生の長年の夢でもあったもので、県内の奏者から技量と人間性を認められた47名で組織された和太鼓による交響楽団です。当日は、出演者はもちろん、裏方のスタッフを含めた全員が、心の中で天野先生の「キュー」を待ち、緞帳を上げ、先生の遺品の指揮棒や譜面を見ながら演奏をしました。そこには言葉もいらず、天野先生の説いた教えや心が太鼓の響きの中から湧き出た演奏は、舞台と客席が一体となる力となり、涙と感動の中、最後の緞帳がおりました。

出演者数……………139名（6団体）
 入場者数…………… 350名

